

お客様とともに (品質保証・取引先)

お客様に満足していただける高品質な製品の安定供給を目指すため、仕入先とのコミュニケーションを重視しお互いの製造に関する提案機会を設けています。

品質保証

THKは、国内外の各生産拠点において品質マネジメントシステムであるISO9001を、また自動車産業、航空宇宙産業等、生産品目に応じ、それぞれの産業に適応できるよう、各種品質セクター規格を認証取得し、品質保証体制を構築しています。

また、グローバルで品質情報を共有できる体制を構築し、世界各地のお客様から届けられる声を

収集、解析し、迅速かつ適切なサービスを提供するとともに、市場ニーズに応えられる製品の開発、品質改善に取り組んでいます。

THKは、すべてのお客様に満足していただけるよう、日々、製品品質の維持・向上に取り組み、安全・安心な製品を世界同一品質でお届けします。

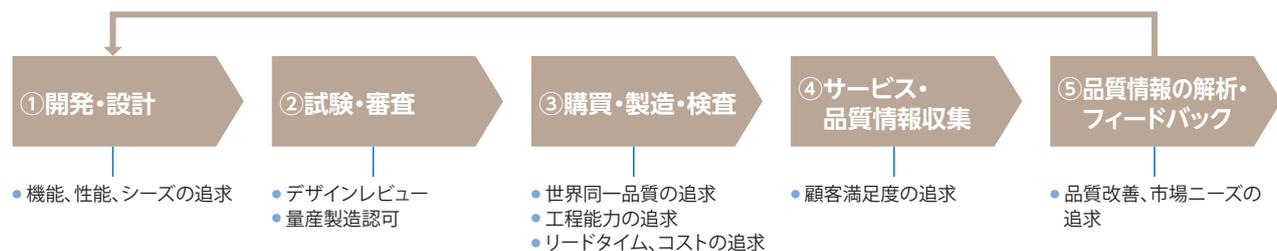
品質マネジメントシステム認証取得状況 (拠点数)

	ISO9001	JIS Q 9100 航空宇宙産業用	ISO/TS16949 自動車産業用
日本	11	1	3
海外	11	—	7
合計	22	1	10

品質方針

品質保証活動を通じ、常にお客様の信頼と満足が得られる製品を供給する

品質マネジメントプロセス



取引先とともに

THKはサプライチェーンにおいて持続可能な社会の実現に向け、設計から販売まで社会規範の遵守や環境への配慮を図っています。また取引先と

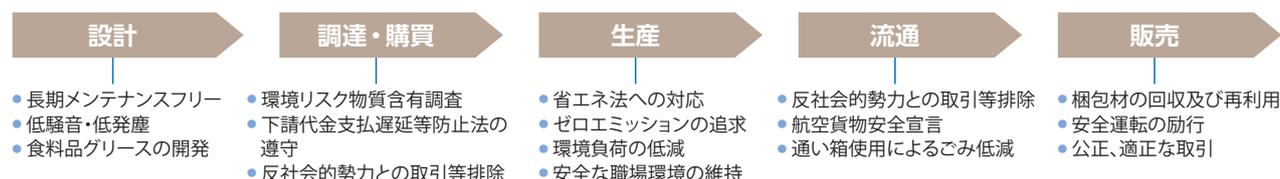
は共存共栄を目指し、良きパートナーシップの構築を進めています。

THK 購買基本方針

お客様に満足して頂けるTHK製品を供給し続ける為に、取引先と共存共栄を目指した健全で良好なパートナーシップを構築する。

- 活動項目
- 1 取引先とのコミュニケーションを重視した購買の実践/QCDESを総合的に考慮して、評価・選定を行う
 - 2 関連法令及び社会規範を遵守した公正かつ公平な取引の実施
 - 3 原価低減の為にコストダウン推進/各種プロジェクト及びVA提案等への積極的参画を促す
 - 4 グローバル調達への推進
 - 5 BCP(事業継続計画)の実践
 - 6 グリーン調達による環境への配慮

THKのサプライチェーン項目



「NEXTAGE®」双腕型産業用ロボットの導入が生産性向上と新事業創出につながることを期待します。

エヌアイシ・オートテック株式会社

1927年、やすり製造、加工を行う西川鐵製作所として富山県で創業。FA (Factory Automation) 装置を中心に事業を発展させ、1983年に国産初のアルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」を開発したことを機にアルミフレーム事業に進出。現在は、FA事業とアルミフレーム事業の二本柱で日本の「ものづくり」を支えています。



NEXTAGE®

カワダロボティクス株式会社製の双腕型産業用ロボット。THK グループとカワダロボティクス株式会社様の共同事業で、ロボット本体の製造をカワダロボティクス株式会社様が、THK インテックスがその販売とオプション製品の開発を担っています。



技術開発部 開発グループ 開発チーム

永井 浩伸 様
Hironobu Nagai

Q 貴社が「NEXTAGE®」を導入された経緯を教えてください。

FA装置で不可欠なLMガイド等をTHKさんから購入する一方、THKインテックスさんには当社製アルミフレームをご利用いただき、長年にわたる相方向で良好な関係です。

かねてから当社では、社会高齢化による労働人口の減少で生産能力、品質低下を問題視しており、どの様に生産性を維持、向上できるかを検討していました。そのなかでTHKインテックスさんから、人と共存し作業のできる「NEXTAGE®」のお話を聞き、関心を寄せると同時に、当社製品のアルミフレームで「NEXTAGE®」の周辺機器もサポートできると考えました。世の中の需要に先駆け、人型ロボットのノウハウを蓄えたいと考えているなか、経済産業省「ロボット導入実証事業*」の制度を活用する機会に恵まれましたので、制度を活用し「NEXTAGE®」を導入しました。



左右のハンドカメラで部品の位置関係を認識し作業するNEXTAGE®

Q 「NEXTAGE®」の評価をお聞かせください。

現在は、アルミフレームに挿入する四角ナットとナットホルダーのセッティングをさせており「NEXTAGE®」には作業者と同一図面をカメラで読み取らせて、「人といつでも入れ替わる作業環境」をコンセプトに生産検討しています。当社では細かい部品を扱いますが、「NEXTAGE®」のハンドカメラ機能で位置関係をしっかり認識し、不良なく動作しています。また、頭部カメラで認識可能な範囲にマーキングシールを貼れば、どこに移動させても自動再調整するので、まさに人と入れ替わり作業ができる点が良いと思います。

THKインテックスさんには、「ナットとナットホルダーの組合作業をさせたい」と相談したところ、ハンドを専用にカスタムメイドしていただき、動作では沢山のアドバイスをいただきました。立ち上げが上手くいかない際も、迅速に対応していただけましたので、大変感謝しています。

Q 今後、「NEXTAGE®」の進化に期待することはありますか。

作業者との入れ替わり、また共存を考えていますので、エンジニアによるプログラミングではなく、作業者自身が簡単にプログラム設定、変更できる、追加アプリケーションやパッケージのような形で用意されていれば、非常に便利ではないかと思っています。

* ロボットが活用される社会の実現に向けて、ものづくり・サービス分野でこれまでロボットが活用されてこなかった領域でのロボット導入の実証や検証を進める制度

株主とともに

株主、その他多くのステークホルダーとのコミュニケーションを行い、企業情報を公正・公平に開示します。個人情報やお客様情報等、各種情報の保護・管理を徹底します。

IR活動

THKでは、公正・公平・迅速かつ、正確でわかりやすい開示を心がけてIR活動に取り組んでいます。決算説明会や個別取材等のIRイベントの質の向上に加え、IRサイトやアニュアルレポート等のIRツールにおける開示情報の充実に努めています。

IRイベント

決算説明会

決算説明会では、社長自らが業績ならびに戦略を説明する他、質疑応答の時間を十分に設け、経営に対する忌憚のないご意見をお聞きしています。

説明会の模様はWebサイトのIR情報ページ上で日本語、英語の2カ国語で掲載しています。



決算説明会動画



IR情報

各種ミーティング

スモールミーティングや個別取材等を通じ、より多くの投資家との対話に努めています。また、海外の機関投資家に対しても、電話会議による取材をはじめ、アメリカ・ヨーロッパの投資家を毎年定期的に訪問する等、国内外を問わずコミュニケーション機会の充実に努めています。

株主総会

「開かれた総会」をコンセプトに

より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、1998年から株主総会集中時期を避けた6月中旬の土曜日に開催しています。加えて、取引先をはじめとするステークホルダーの皆様にも当社の経営をご理解いただくため、会場には見学席を設けており、より多くの方々にご参加いただいています。さらに、株主総会終了後には、日ごろ接する機会の少ない当社製品をより身近にお感じいただくため、併催展示会を開催しています。

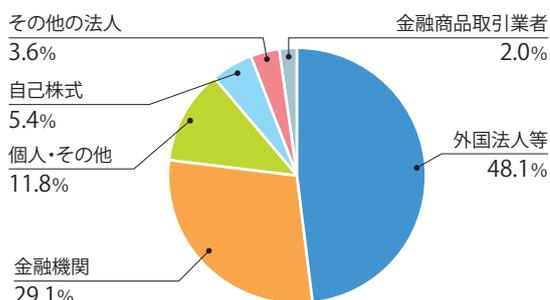
第47期定時株主総会

2017年6月17日に開催しました第47期定時株主総会では、約450名の株主の皆様にご出席いただきました。併催展示会では、工作機械や産業用ロボット等、ものづくりに不可欠な産業用機械をはじめ、新規分野として開拓を進めている免震装置、輸送機器、ロボット、再生可能エネルギー関連等の使用例や、IoTを活用した新たな取り組みをご紹介します。



第47期定時株主総会

所有者別株式分布状況 (2017年3月31日現在)



従業員とともに (安全・衛生)

労働災害の防止や従業員の健康作りに向けた各種活動・セミナー・講習会等を適宜開催し、快適な職場作りを目指します。

労働安全衛生マネジメント体制

THK5工場は2010年に労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS*18001)認証を取得しました。2016年度は下記方針目標の達成に向け、活動を行いました。

方針：労働災害0件、疾病0件で快適な職場作り

活動項目	活動内容	目標	2016年度結果	
労働安全衛生マネジメントシステムを全員に浸透させる	リスクアセスメントの実施と職場安全教育推進			○
	関係法規の整理と周知(化学物質のリスクアセスメント)			○
	内部監査の準備と実施(相互監査)	2回/年	2回	○
	マネジメントレビューの実施	1回/年	1回	○
安全衛生委員会の活動を活性化させる	防災対策の推進	1回/年	1回	○
	交通安全活動の推進	交通災害：0件	11件	×
	職場安全パトロールの実施	1回/月	12回	○
	5S(6S)活動の推進	1回/月	12回	○
労働災害の撲滅	労働災害の発生を防止する	労災：0件	21件	×
	ヒヤリハット活動を推進する	製造：月1件/G毎、間接：月1件/課毎	1,535件	○
	構内協力企業・外来者への指導を推進する			○
健康管理の充実	定期・特殊健康診断の実施	1回/年	1回	○
	メンタルヘルスの推進	1回/年	1回	○
	ストレスチェックの実施	1回/年	1回	○
	疾病の予防活動推進			○
	産業医の指導に基づく改善活動			○

* OHSAS : Occupational health and safety management systems

度数率・強度率(データ)

	2012	2013	2014	2015	2016
度数率	0.20/1.59	1.09/1.58	0.20/1.66	1.13/1.61	0.25/1.63
強度率	0.01/0.10	0.02/0.10	0.00/0.09	0.01/0.07	0.00/0.10

(THK/全国平均(%))

度数率：労働災害発生の頻度を表わす
 $[\text{度数率} = (\text{死傷件数}) \div (\text{延労働時間}) \times 1,000,000]$
 強度率：労働災害発生の軽重程度を表わす
 $[\text{強度率} = (\text{延労働損失日数}) \div (\text{延労働時間}) \times 1,000]$

※ 2012～2015年度まではTHK5生産拠点のデータ。

2016年度はTHKと日本連結子会社、計12生産拠点のデータ。

ランチョンセミナー開催

「ストップ!! the 生活習慣病」を念頭に、今年で3回目となるランチョンセミナーを12月に本社とテクノセンターで開催しました。

今回は知らないと怖い「歯の健康」をテーマに、明海大学PDI東京歯科診療所から3名の歯科医師と1名の歯科衛生士にお越しい

ただき、計44名が「虫歯と歯周病」の講話と正しいブラッシングやデンタルフロスの使い方の説明を受けました。



テクノセンターでの講話

メンタル講習会

甲府工場試験研究部は健全な職場環境作りに向け、講師に臨床心理士の長田先生をお迎えし、年2回のメンタルヘルス講習会を開催しています。

先生による講義の後、グループディスカッションを行い、上司・部下の垣根を越えた意見交換で相手への理解を深めています。今後、互いの良い所を見るポジティブ脳の育成と折れない心(レジリエンス)の講義を行う予定です。



メンタルヘルスの講義

従業員とともに (成長支援)

従業員の個性を尊重しつつ、現場での教育・社内外研修・社内公募・eラーニング等を通じ各自に合ったキャリア形成や能力開発の場を提供します。

技能伝承 — 微妙なズレを体で感知

岐阜工場製造第3課加工グループは、免震装置、風力・水力発電製品の加工を行っています。これら製品群の中で「回転慣性質量付き減衰装置」iRDT*はボールジョイント機構を有し、M100、M120、と大径ねじとなっており、JIS1級規格で管理を行っています。しかし、被削材の微妙な変形や表面処理後の膜厚のばらつき等により、場合によっては組み合わせる事が難しくなります。そこで、調整作業が必要になり、NCではクランプが困難な形状の為、技術が必要とされる、汎用旋盤を使用した最終調整を人の手で行います。



指導員：(左)下間彰司副課長
受講生：(右)吉田達也課員

当グループでは、課員全員が当作業を行えるよう、また旋盤加工の国家技能検定取得を目的に、熟練作業員から若手社員への研修を定期的に行っています。

* iRDT：超高層ビルに於ける地震の揺れをボールねじで回転運動に変換し吸収。長周期地震対策に有効。

海外トレイニー制度

勤続3年以上の若手社員が海外拠点での業務を体験し、将来の海外赴任候補者としてのスキルや考え方を身に付けさせる制度を2016年12月から開始しました。勤続年数、年齢、語学力等、一定の条件を満たせば誰でも応募可能で、選考で対象者と派遣拠点が決まります。2016年度には2名が当制度を利用し、インドとシンガポールでの勤務を開始しています。

人事データ集

(年度)

	2012	2013	2014	2015	2016
育児休業(名)	29	31	29	23	21
育児短時間(名)	33	41	48	62	71
平均勤続年数(年)	15.4	16.7	17.4	17.8	18.3
永年勤続表彰受賞者数(名) 5年毎で表彰	744	579	624	816	613
改善提案件数(件) / 2次表彰受賞者数(名)	11,871/331	11,065/278	7,213/193	6,309/162	3,777/94
eラーニング着手 コース到達率(%)	73.2	74.0	77.0	73.6	72.3
障がい者雇用率(%) 各年度4月末時点	2.01	2.24	2.23	2.21	2.17

Voice 海外トレイニー利用者の声



THK LM SYSTEM Pte.Ltd
三浦 久斗
Hisato Miura

大学では機械工学を専攻しセンサーの研究に力を入れていたので、ロボットを扱っている部品関係の会社を志望していました。元々人と接するのが好きで、THK入社時には希望通り営業部門に配属されました。営業活動では実際に大学時代に学んだことが役に立ち、お客様への説明で“たわみ”や“変位量の計算”といった知識が活用できました。その後技術部門に異動し経験を積む中で、アクチュエータを含むロボットを実際に動かせる営業活動をしたと思うようになりました。また一方、これまでの営業活動を通じて、THK製品の多くはお客様の海外工場に出荷されていることが分かりました。そこで実際にお客様の海外工場が必要とされる技術提案を行い、拡販を通して国内のみならず海外でのTHK製品の知名度を上げたいと思うようになりました。そんな折、海外トレイニー制度の話を聞き、迷わずに応募しました。シンガポールを希望したのは営業エリアが東南アジアからオセアニアまでの広範囲にわたり、多くの海外のお客様と出会え、話し合うことでたくさんの知識の吸収ができ自分自身を成長させられると思ったからです。まだ営業活動を行える英語レベルではありませんが、少しでも早く英語力を高め会社の役に立ちたいと思っています。

THKは2016年度に海外社員比率が50%を越えました。グローバル化が着々と進む中で、初のトレイニー制度応募者として次の代につなげ、多くの方が海外で働いてみたいと思われる先陣役を果たしたいと思っています。

従業員とともに (人権・多様な働き方)

多様な人材の就労に努め、差別のない雇用を行います。児童労働や強制労働等の人権侵害行為は行わず、障がい者の方が身体面・精神面で働きやすい職場環境作りを行います。

障がい者就労アドバイザー

2016年7月に山口工場環境教育課吉永副課長は、労働局から「障がい者就労アドバイザー」に認定されました。民間企業の立場から、障がい者就労支援を目的に特別支援学校等で講演会や助言活

動を行っています。11月には(独)高齢・障害・求職者支援機構主催の「職業リハビリテーション研究・実践発表会」で、当社の障がい者雇用の取り組みを紹介しました。

周りの方々に支えられて

三重工場 製造推進部 受注管理課

岩本 真理雄
Mario Iwamoto



営業部門へ納期回答中



表彰状

工業高校で旋盤加工を学び、その能力が活かせる会社としてTHKを選びました。製造1課に配属され、NC旋盤加工を任されました。入社5年目には機械加工の国家技能検定を取得し、後輩育成に尽力しました。

しかし自身の不注意による事故で右足関節機能全廃となり、2年間のリハビリ生活を余儀なくさ

れました。障がい認定を受けましたが、職場の皆様の足への負担を少なくする心配り(階段への手すり追加や工場敷地内駐車場の利用可等)があり、幸いにも職場復帰できました。皆様の支えを受け勤務継続できた事が評価され、2016年9月に(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構から努力賞の表彰を受けました。

現在は受注管理課で、過去の製造現場での経験を活かした納期管理業務を行っています。営業からの納期短縮依頼に対しては、現場担当者と連絡を取りお客様のご要望にできるだけ沿える様、調整しています。

今後は他工場の障がいを持った方との交流の場を持ち、それぞれの工場で導入されている良い事例を横展開し職場環境の改善につなげたいと思います。

何事にもチャレンジ精神を

山口工場 製造推進部 受注管理課

尾本 智洋
Tomohiro Omoto



最終出荷処理作業



社内検定資格3級の合格バッジ

下関総合支援学校時代にTHKで2週間の実習を行うことで会社に興味を抱き、入社しました。製品梱包用ダンボールの組立て作業や業者への支給品発注業務を経験し、現在では完成品を物流・配送部門へ回すための最終出荷処理と防錆フィルム等の資材発注および資材の入荷検品業務を担当し

ています。2012年には障がいを持っていて受かるか不安でしたが、3年かかったものの国家技能検定機械検査3級に相当する社内検定資格を取得できました。元々集中力は高いと思っていましたが、技能検定試験の合格は自分自身の大きな自信につながり、その後普通自動車免許も取得することができました。読売新聞社からは障がい者雇用で能力を伸ばせる職場と題して取材を受け、西日本版(2016年6月5日)に記事が紹介されました。

公私ともにチャレンジする事で、自分自身が大きく成長していると感じています。現在の業務での必要性はありませんが、フォークリフトの免許取得を含め新たな業務に携わる上で必要な資格があれば積極的に取得したいと思っています。また、将来的には結婚して家庭を築きたいと思っています。

従業員とともに (地域社会)

行政機関、NPO、NGO、地域社会等との連携を進めるとともに、当社従業員の自主的・積極的な地域社会活動への参加を支援します。

寄付・募金活動

THKは社会貢献活動の一環として、自然災害発生時の支援金の提供を行っています。また、将来の日本のモノづくりの発展に向けて、科学振興を目的とする団体への賛助金の提供、THKの拠点がある地域の催事への協賛を行っています。

寄付金一覧

日付	寄付目的	寄付送金先
H28. 4	熊本地震義援金	日本赤十字
H28. 4	台湾地震義援金	日本赤十字
H28. 7	日本赤十字活動資金	日本赤十字
H28.11	鳥取県中部地震義援金	日本赤十字
H29. 1	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金



甲府工場は長年にわたる寄付活動の功績が評価され、日本赤十字社から金色有功章を受賞しました。

キッズ★おしごと広場

三重工場は、2016年7月に「みえこどもの城」で開催された小学生向けの仕事体験イベントに参加しました。第4回目となる今回は35社の企業・団体が参加し、THKブースではノギスやマイクロメーター等を使ったミクロ単位の計測をはじめ、ロボットハンドを使った細かな作業や地震模型を使った免震技術の仕組みに触れてもらいました。

地元にある企業の仕事を肌で感じることで働くことへの関心を高め、また理科の楽しさを味わってもらえました。



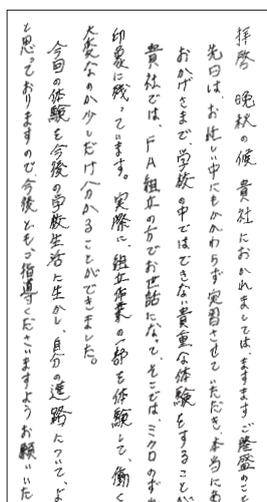
マイクロメーターを使って計測する子供たち

ジュニアインターンシップ

THKインテックス仙台工場は宮城県立黒川高校が2学年全員を対象に、アルバイトとは違った職業観・勤労観を肌で感じてもらう事を目的とした3日間の就業体験の取り組みに協力し2016年11月に4名の生徒を受け入れました。

生徒さん方は主に組み立て作業を行いました。精密機械ではミクロのずれも許されない事や普段気にしていなかった挨拶の大切さを学び取っていました。

なお、高校では実習終了後に手書きのお礼状を用意させる等、社会人としてのマナーまでフォローしています。こうした生徒さんのキャリア形成や地域に貢献できる人材の育成に努めた結果、当高校は2017年1月に第10回キャリア教育優良教育委員会、学校およびPTA団体等文部科学大臣表彰を受けました。



参加者からの手書きのお礼状

新潟県医師団の受け入れ

THK新潟は2016年11月に、日本医師会の認定産業医制度の認定取得に向けた研修会の開催要請を快諾し19名の医師を迎え入れました。

当研修は産業医のスキルアップを目的とする一方、訪問先企業での労働衛生管理の概略説明や事業所見学を通し、多くの医師からの意見・提案等をいただき新たな職場環境の改善を図ることができます。

THK新潟の産業医である興梠先生からは「免震体験車まで用意してもらえ、参加した医師のTHK製品理解が進み大変好評であった」とのお言葉をいただきました。



興梠先生による講演

THKアメリカの寄付活動

THKアメリカ本社は、シャンバーグ市の要請を受けて毎年クリスマス時期に、経済的に苦しい方々に支援活動を行っています。従業員有志が参加し、缶詰・スナック菓子・調味料から洗剤・トイレットペーパー・紙おむつ等にわたる幅広い生活必需品を支援団体に寄付しています。

支援活動は1998年から行っており、この長年にわたる活動に対し市から感謝状をいただきました。今後も各種寄付活動を通じ、地域社会へのボランティア活動を続けていきます。



従業員から集まった食料品と生活用品
(写真左から、Jennifer Cuthbert, Annette Drayton, Colleen Griffiths, Tracy Gardner)

バレーボールのコーチ

4年前に娘が地元のスポーツ少年団でバレーボールを始めたのをきっかけに自身初めて接する競技でしたが、その楽しさにのめり込み2013年に審判・指導員の資格を取得しました。そして現在では週3回、地元の小・中学校の体育館で子供達に指導を行っています。

昨今社会に順応できず孤立してしまう人を多く見受けますが、スポーツは人間形成教育(特にコミュニケーション力の上達)に最適な場です。バレーボールといった団体競技を通して周りの子との会話力、強調性、連携力の大事さを学びとって欲しいと思います。しばらくは指導を継続するつもりですが、これまでの教え子が後輩の指導者として戻り、スポーツ少年団を盛り上げて欲しいですね。



山形工場 品質保証課

大類 智紀

Tomonori Oorui

試合中に楯を飛ばす

汪さんの老人施設への活動／遼寧

遼寧工場では2015年7月にボランティア組織を設立し、現在では約30名の社員が参加し各種活動を行っています。

2016年3月には工場から車で約20分の所にある身寄りのない、体が不自由で、生活が困難な老人を無料で扶養している「汪さんの老人施設」を訪問しお米、小麦粉、油等を寄付し、また餃子と一緒に作って食事会を行いました。4月に行われた「汪さんの農業園」の開業式には、今野総経理も出席し応援証書をいただきました。

今後は大連市のチャリティー機関と連携し社会ボランティア活動の継続、さらには環境保護活動にも参加していく予定です。



汪さんの農業園開業式と応援証書
(前列右から2人目の人が持っている)

厚木市の里山制度

昨年に引き続き、東日本OFCと技術開発部の有志が厚木市七沢里山づくりの会の活動の一環である田植え活動に参加しました。今年は昨年参加できなかった稲刈り作業もでき、会からは当社植え付け分としてうるち米ともち米計12キロをいただきました。

参加者全員「地元で採れたお米は地域の子供達に食べてもらい丈夫な子になって欲しい、また地産地消の推進につながれば」という思いからお米を市内保育所に寄付しました。



お米はお餅として
おやつに出されました